

「インクルーシブな学校運営モデル事業」カリ・マネ便り⑧

カリキュラム・マネージャー

第2回連携協議会における意見等

協議内容は次のとおりです。

協議会資料は、アンケートやカリ・マネ便りなど既に先生方に提供しているものです。

アンケート結果、回収率について(質問Q、答えA、意見C)

- Q 教職員アンケートの回収率が低い印象がある。その評価について伺いたい。
- A 作業を行った者の印象として、印刷物によるアンケートとGoogle Formの違い、高校・特別支援学校と義務校との違いもあるのかと思った。
- A 事業開始時のアンケートと比較すれば増えた印象がある。「みんなでつくりあげていく」意識が高まるように努めたい。
- C 回答者への情報提供が重要。アンケートの数値にとらわれず、具体的な例など各質問の意味を検討できるようにするとよい。
- C 今後、理解・周知を図れば回収率は上がってくるのではないか。「分からない・無回答」も、今後減っていくとよい。

両校の連携について

- C 出された要望の理由や背景を考えたい。要望に对应ると同時に「こんなこともできますよ」と逆パターンもあるとよい。
- C 今年度、本校の教職員向けに通信を発行してきたが、これを更農にも提供したい。PT事業を通して更農の難しさも実感しており、これらの経験も生かして今後も発信していきたい。
- C 教師の意識が高くなり、具体的に「困っている、～したい」という声が出始めた。生徒も交流に向け準備を始めている。両校のよさをもち寄って交流を深めていきたい。
- C 気軽に相手校に行けるように、出張などの扱いを柔軟にできるとよい。
- C 事業が進んでいくと、学校経営の進め方が課題となる。両校で話し合うことにしている。単位や時程の問題なども検討できたらと思う。
- C 一人一人に応じた「交流及び共同学習」を進めるためには、生徒の移動についても柔軟な扱いとなるように共に検討したい。
- C 回収率の低さに衝撃を受けたが、この事業が具体的に役立つことを示し、理解者を増やすべき。持続可能なものを示してほしい。また、生徒のアウトプットを大切にすることで自己有用感を味わわせ、活動の幅を広げてほしい。

今後に向けて

- C 取組が進んでいる印象を受けた。両校がウィンウィンの関係になればよい。「交流学习」でも、生徒が「次はこうしたい」と言える振り返りや促しを行ってほしい。
- C 年度初めに説明されていたことが少しずつ進んでいると感じた。2つの実施要項は関連が強く、今後はより活発になっていくことを期待している。一緒に学ぶ機会を設け、集団を意識した取組の中で指導の意味付け、価値付けを行ってほしい。

※この便りは更農、中高養の教職員の方々に向けて作成しています。

- 「授業や行事への参加」と生徒の「意識」の相関関係の背景を明らかにしてほしい。教職員向けの通信「ふきのとう」を当方にも送ってほしい。
- 「交流学习」の評価を行ってほしい。どのような生徒の言動があればよいのか。教師間の学び合いについても同様である。
- 両校の要望の質的な差が感じられる。更農は農業や食品、企業やマスコミの使い方が上手である。更農が既に持っている力を借りれたらと思う。
- 全国で複数の取組が行われている。教師の専門性が更に発揮されていけばよい。

教職員アンケート「モデル事業」の分析結果（七飯地区と共通）

肯定的回答（「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」）の比率の範囲は中高養が83%～33%、更農は92%～23%でした。有意な差は⑪と⑭に見られました。

質問	中高養	更農
① 中札内高等養護学校と更別農業高等学校の生徒が共に学ぶことで、お互いの生徒たちの理解が進むと思う。	59%	77%
② 中札内高等養護学校と更別農業高等学校の生徒が共に学ぶことで、豊かな人間関係を形成することができると思う。	59%	85%
③ 中札内高等養護学校と更別農業高等学校の生徒が主体的に関わる交流及び共同学習を行うことで、共に学ぶ喜びを感じることができると思う。	57%	77%
④ 異校種の教員間で授業観察や合同研修を行うことは、お互いの学校の理解が深まるとともに、教員としてのスキルアップにつながると思う。	71%	92%
⑤ 中札内高等養護学校と更別農業高等学校において、授業づくりや学級づくり、障がいのある生徒たちの理解などについて、お互いに相談し合うことができると思う。	57%	85%
⑥ 各学校において、障がいのある生徒への支援の充実を図るためには、他校種の教職員と相談し合うことは効果的だと思う。	75%	92%
⑦ 将来、違う学校種で働く場合を考え、授業づくりや学級づくり、障がいのある生徒たちの理解などについて、身に付けておきたいと思う。	76%	92%
⑧ 中札内高等養護学校と更別農業高等学校の生徒は、お互いを受け入れられないのではないかと不安がある。	33%	23%
⑨ 私は、障がいのある生徒や特別な教育的支援を必要とする生徒の実態等に応じた教育活動を行っている。	83%	77%
⑩ 私は、生徒の資質・能力を育むために必要な各教科等の専門的知識を身に付けている。	75%	62%
⑪ 校内委員会等（生徒の実態把握や支援内容の検討を行うための校内組織）で検討した内容が指導・支援に生かされている。（ $p=0.015<0.05$ ）	48%	85%
⑫ 校内研修の内容が日々の実践に生かされている。	59%	85%
⑬ 保健・福祉等の関係機関との連携体制が構築されている。	60%	69%
⑭ 中高養は、地域においてセンター的機能を発揮している。（ $p=0.033<0.05$ ） 更農は地域にある特別支援学校のセンター的機能を効果的に活用している。	56%	23%

※この便りは更農、中高養の教職員の方々に向けて作成しています。